

③石部スタイルの導入

全教科で実践される石部スタイルの取組を、道徳の時間は特に意識して実践しようと呼びかけた。

机間指導の時に教師が座席表を持ち、児童の思いを価値への高まりを意識しながら分類、把握するよう努めた。

取組を重ねていくことで、授業中児童の発言を交流する活動の際、児童の思いが次第に高まるよう意図的指名をするのに役立った。



机間指導はボードを持って

④総合単元的な構想図

各学年で児童の実態に合わせて決めた『重点目標』にそって、できるだけシンプルに約2～3ヶ月の期間を見通して作成していくよう構成してきた。『めざす子どもたちの意識の流れ』を吹き出しで加えることでより具体的で使いやすいものを提案し、定着してきた。

2. 言語感覚を磨く取組

①詩の暗唱

昨年に引き続き、暗唱課題の掲示や、学年によりチャレンジする曜日を設定するなどの取組に対して円滑に行えると思われる取組については残しつつ、新たな取組も取り入れていった。

今年度の校長の暗唱課題には、東日本大震災につながるテーマの物も多く、やや難易度の高い内容のものも多かったため、低学年などでは、合格の達成感を味わうという目的に焦点を当て、親しみやすい教材を課題に設定し挑戦した。

また、暗唱できているかという点だけでなく、発音や発声にも注目し、朝の発声タイムを設定し、発声方法を学び、練習を繰り返してきた。

その結果、ふだんの生活でも聞き取りやすい発音や、正しい発声で発表できる児童が増えたように思う。



朝の発声タイム

②ことばの広場

5・7・5、詩、作文、感想文、ふわふわ言葉など、さまざまな言語に関する作品づくりに積極的に挑戦し、言語感覚を高めようという取組はかなり定着してきた。

そのひとつとしての、学級からの代表作品が毎月数点掲示される『ことばの広場』では、掲示される作品も、工夫の凝らされた物があり、子どもたちも作品作りに慣れ親しみ、楽しんでいる様子が見られる。



楽しい作品がズラリ

秋の D-1 (だじゃれワン) グランプリの練習会が開催された時期からは、だじゃれを楽しんで作品にする学年が増え、1月の校内 D-1 グランプリは盛り上がりを見せた。

③国語力集会と『聞く聴く名人への道』の活用

今年度は国語力集会が毎月行われた。体育館に入場前に聴き方の自己目標を立て、集会で校長の話の聞き、教室でふり返りを書くという流れが主な活動であった。



教師は、『聞く聴く名人への道』を活用し、子どもたちが自分の聴く態度の段階を意識し、より具体的な目標を持って集会に臨めるよう促した。

しかし、発達段階によっては、子どもたちが明確に目標を持つことが難しかったり、表自体がかなり長いスパンで聴く力を育てていくことを前提としたものであると考え、『聞く聴く名人への道』の表そのものをより使いやすい物へ改良する必要性を感じた。

④聴く力の指標作成

『聞く聴く名人への道』の表だけでなく、目指す子どもの実態をより具体的にするために、「話す・聴く力の指標」作成に取りかかった。こころづくり部の行動指標と同様、3つの視点で A を望ましい姿、C をなくしたい姿として作成をすすめてきた。3つの視点とは、「聞く」「思いを持つ」「話す」である。低・中・高学年に分け、発達段階や実態、国語の指導要領の目標などを総合的に考え合わせた。

しかし、完成には至らず、学年部間の調整、具体的な活用方法については、来年度への課題として送ることとなった。

3. 家庭との連携

①『家庭学習のすすめ』配布

学力の定着には家庭学習も大変重要であり、各家庭の協力が必要不可欠である。家庭学習の習慣が定着するよう『家庭学習のすすめ』を作成し、配布した。

表は保護者向けの文章で、家庭学習の重要性と協力を呼びかけており、裏は子どもが毎日参考にできるような内容になっている。

一度配布し親子で目を通した後、親子で話し合っって学習開始時刻を決め、記入し、担任へ提出した。担任はチェックし再配布した。

子どもたちには、家庭学習の重要性と表の活用法をオリエンテーションの時間をとって説明し、よく見える場所に保管するよう言って配布した。

